

## 第 22 回伊那新校再編実施計画懇話会

日時：令和 8 年 3 月 18 日（水）

18 時～19 時 30 分

会場：長野県伊那合同庁舎 講堂

### <次 第>

1 開 会

2 県教育委員会あいさつ

3 新構成員紹介

4 座長選出

5 会議事項

（1）第 21 回伊那新校再編実施計画懇話会のまとめ

（2）校名選考について

（3）地域説明会の報告

（4）開校に向けた校舎整備の進捗状況

6 その他

7 閉 会

## 新校再編実施計画懇話会開催要綱

### (目的)

第1 県教育委員会が、統合新校ごとの再編実施計画を策定するにあたり、再編対象校に加えて、対象校が所在する地域の意見を聴くため、「新校再編実施計画懇話会」(以下、「懇話会」という。)を開催する。

なお、懇話会は、地方自治法第138条の4第3項の規定に基づき、法律又は条例により設置された附属機関ではないものとする。

### (会議事項)

第2 懇話会は、次の事項について意見交換を行う。

- (1) 学校像、教育方針等に関する事
- (2) 校地・施設・設備等に関する事
- (3) 管理運営等に関する事
- (4) 教育内容等に関する事
- (5) その他、県教育委員会が必要と認める事項に関する事

### (構成員)

第3 懇話会の構成員は、統合対象校の学校関係者(校長、教職員等)、地域の代表(自治体関係者、産業界の代表等)、同窓会、PTA、生徒の代表等とし、必要に応じ、県教育委員会が依頼する。

2 会議に座長を置く。

### (開催期間)

第4 会議は統合新校が開校するまでの間、開催するものとする。

### 附 則

この要綱は、令和2年10月26日から施行する。

## 第22回 伊那新校再編実施計画懇話会 構成員名簿

○印：新規構成員

(敬称略)

区分	氏名	所属等
自治体	伊藤 徹	伊那市 副市長
	片桐 健	飯島町教育委員会 教育長
	○齊藤 博	駒ヶ根市教育委員会 教育長
	田中 章	上伊那広域連合 前事務局長
	唐澤 直樹	上伊那広域連合 事務局長
産業界	田畑 和輝	伊那商工会議所 監事
	春日 俊也	駒ヶ根商工会議所 副会頭
	黒河内 貴	株式会社仙醸 代表取締役社長
学識 経験者	片山 茂	信州大学農学部 教授
	高橋 百合子	長野県看護大学 准教授
地域	河野 宏	一般社団法人上伊那医師会
	中山 佳代	元上伊那地域の高校の将来像を考える協議会
	池上 安雄	上伊那地域振興局 局長
同窓会	山田 益	伊那北高等学校同窓会 運営委員会委員長
	下島 典子	伊那弥生ヶ丘高等学校同窓会 会長
P T A	大住 真希	伊那北高等学校 P T A 副会長
	○宮下 正雄	伊那弥生ヶ丘高等学校 P T A 副会長
	○城村 義人	上伊那 P T A 連合会 参与
学校 関係者	田中 智之	上伊那小学校長会 会長 (伊那市立伊那東小学校長)
	田中 幸一	上伊那中学校長会 会長 (伊那市立高遠中学校長)
	小池 景子	伊那養護学校 校長
統合校 関係者	○大槻 恵永ケリー	伊那北高等学校 生徒代表
	○岸田 朋樹	伊那北高等学校 生徒代表
	○松崎 梨乃	伊那弥生ヶ丘高等学校 生徒代表
	○毛利 羽花	伊那弥生ヶ丘高等学校 生徒代表
	山岸 明	伊那北高等学校 校長
	松村 真一	伊那北高等学校 教職員
	佐々木 俊秀	伊那弥生ヶ丘高等学校 校長
	唐澤 功	伊那弥生ヶ丘高等学校 教職員

### 【事務局】

伊那北高等学校	
千葉 亮	教頭・事務局長
松村 真一	
倉石 典広	
朝倉 三好	
桐生 祐治	

伊那弥生ヶ丘高等学校	
犬飼 健一	教頭・副事務局長
唐澤 功	
春日 雅博	
常田 真由美	
瀧澤 洋貴	I C T担当

### 【県教育委員会】

高校再編推進室	
原 多恵子	主幹指導主事
高橋 正俊	主任指導主事
荻原 洋平	主任指導主事
米澤 和真	主事
学びの改革支援課	
中谷 幸裕	指導主事

## 第 21 回 伊那新校再編実施計画懇話会まとめ（案）

<b>日時</b>	令和7年7月17日（木）午後5時30分から午後6時10分		
<b>場所</b>	オンラインによる開催（配信会場：伊那弥生ヶ丘高等学校会議室）		
<b>出席 （敬称略）</b>	伊藤 徹、片桐 健、本多 俊夫、田中 章、唐澤 直樹、春日 俊也、黒河内 貴、片山 茂、高橋 百合子、河野 宏、中山 佳代、池上 安雄、山田 益、下島 典子、大住 真希、藤澤 真由子、浅川 直矢、田中 智之、田中 幸一、小池 景子、池上 裕汰、水上 ちはや、宮下 賢三、阿部 翔湊、山岸 明、松村 真一、佐々木 俊秀、唐澤 功（以上28名）		
<b>欠席 （敬称略）</b>	田畑 和輝（1名）	<b>オンライン 傍聴</b>	報道6社、一般3名
<b>事務局</b>	伊那北高校	千葉教頭、松村教諭	
	伊那弥生ヶ丘高校	犬飼教頭、唐澤教諭、春日教諭、瀧澤教諭	
	県教育委員会	原主幹指導主事、高橋主任指導主事、米澤主事、中谷指導主事	
<b>会議事項</b>	（1）第20回伊那新校再編実施計画懇話会まとめ （2）校名選考について		
<b>当日資料</b>	・次第、開催要綱、構成員名簿、第20回懇話会まとめ、校名選考関連資料		

### 主な内容（・意見、質問等 → 県教委）

- （1）第20回伊那新校再編実施計画懇話会のまとめ  
質問、意見なし
- （2）校名選考について
- 「選考の進め方及び観点」、「校名決定の流れ」について資料をもとに説明  
【質疑、意見交換】
    - ・伊那北高校や伊那弥生ヶ丘高校を連想させるような校名は新しさに欠けるのではないか。そのような校名は選考の対象としないことを募集要項に明記するなど検討いただけるか。
    - ・初めから「このような名前は選考しない」など制限をつけるのではなく、広く募集したらいかがか。
      - ➡公募の段階では、あまり条件をつけずに広く募集したいと考える。→了承
    - ・第22回懇話会で最終校名候補を1案に絞るという認識でよいか。
      - ➡そのとおり。それをもとに両校校長から県教委に具申してもらう。
  - 「校名募集要項」について資料をもとに説明  
質問、意見なし

### その他

#### 【次回懇話会】

- ・日時 令和7年11月～12月頃（予定）
- ・会場 未定
- ・内容 校名選考について

## 伊那新校 校名選考の経過

### 1 校名選考の概要

#### (1) 校名公募

- ① 公募期間： 令和 7 年 8 月 1 日（金）～ 9 月 7 日（日）
- ② 応募内容： 校名案と理由
- ③ 応募方法： 応募フォーム、郵送または持参

#### (2) 応募状況

- ① 応募件数： 909 件

応募フォーム：791 件、郵送・持参：118 件(うちイベントによる応募 60 件)

10 代以下	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代以上	合計
113 件	68 件	107 件	159 件	181 件	152 件	129 件	909 件
12.4%	7.5%	11.8%	17.5%	19.9%	16.7%	14.2%	100%

- ② 校名案： 468 件

#### (3) 選考の観点

- ① 校名は「長野県（ ）高等学校」とする  
【次の②～④のうち、1 つ以上が含まれていること（すべて含めてもよい）】
- ② 学校の所在地がわかりやすく、親しみがあり生徒が誇りを持てる名称である
- ③ 伊那北高校と伊那弥生ヶ丘高校のこれまでの歴史や伝統などがイメージされている
- ④ 自らの可能性を切り拓き、夢の実現に果敢に挑戦するという学校像が表現されている

#### (4) 一次選考

- ① 両校の職員で構成する設立準備委員会と高校再編推進室で選考の観点に沿って、468 件から 192 件に絞る。その際に「伊那北」、「伊那弥生ヶ丘」及び伊那北高校所在地の呼名「薫ヶ丘」などの両校に関連する校名案については、新校としての未来への広がりや新たな可能性が自然に伝わる名称を選びたいと考え、選考の対象としないこととした。
- ② 更に選考するにあたり、両校職員各 6 名、県教委 6 名の計 18 名で 3 回の校名審査を行う。候補を絞るにあたり「両校の伝統の継承」、「漢字の意味」、「地域性」、「声に出したときの響き」、「品格」等を基準とした。
- ③ 校名候補に対し、商標権等の調査を行い、権利上問題がないことを確認の上、「伊那」「伊那瑛陵」「伊那学峰」「伊那学陵」「伊那双峰」「上伊那学陵」の 6 候補を二次選考の対象とした。

#### (5) 二次選考

- ① 「懇話会構成員」は 1 人 1 票の投票、「地域」「両校の在校生と教職員」には校名にふさわしい候補を 3 つまで選んでもらう投票及び意見募集を実施。
- ② 期間は、「懇話会構成員」の投票は令和 8 年 2 月 26 日(木)～ 3 月 8 日(日)、「地域」「両校の在校生と教職員」の投票及び意見募集は 2 月 26 日(木)～ 3 月 12 日(木)。
- ③ 第 22 回懇話会において、投票及び意見募集の結果を踏まえた意見交換を行う。

### 2 校名選考の検討経過

- (1) 第 12 回懇話会（令和 4 年 7 月 6 日）
  - 校名検討について意見交換
- (2) 第 13 回懇話会（令和 4 年 10 月 7 日）
  - 教育内容や学びのイメージを共有することを重要視し、校名の公募については時期を改めて実施することとする
- (3) 第 19 回懇話会（令和 7 年 2 月 3 日）
  - 校名選考のスケジュールについて意見交換
- (4) 第 20 回懇話会（令和 7 年 5 月 13 日）
  - 校名選考の観点、選考方法、公募について意見交換
- (5) 第 21 回懇話会（令和 7 年 7 月 17 日）※オンライン会議
  - 校名募集要項について意見交換
- (6) 第 22 回懇話会（令和 8 年 3 月 18 日）
  - ① 校名募集結果の報告
  - ② 一次選考の経過報告
  - ③ 二次選考での投票結果の報告
  - ④ 校名選考について意見交換

伊那新校 一次選考後校名候補 懇話会構成員による投票結果 (五十音順)

校名候補 (読み)	校名候補に込められた想い	投票数	その校名とした理由
A 伊那 (いな)	両校が歩んできた百余年の歴史を「伊那」という言葉に集約し、等しく継承する。上伊那地域の教育・文化の中心地としての責任を担い、地域に根ざした教育を推進。シンブルで力強い校名を掲げること、全国・世界へ羽ばたく生徒たちのアイデンティティの拠り所とする。	22	(投票理由の要約/別紙参照) ・シンブルは重視 (Simple is Best・可読性・利便性) ・公平な伝統継承 (両校共通の地名・納得感・一体感) ・地域を代表する高校の校名 (骨太な安定感・誇り) ・時代への柔軟性 (イメージ固定回避・普遍性・余白) ・脱流行 (非作爲的・脱造語・親しみやすさ) ▶ 装飾を削ぎ落としたシンブルだが、両校の歴史を包摂し、上伊那地域の代表校としての重みと柔軟な将来性を担保する
B 伊那瑛陵 (いなえいりょう)	「瑛」は澄みきった光、「陵」は丘を意味する。伝統ある両校の精神を継承しつつ、生徒たちが澄み切った知性を磨き、アルプスの山脈のように高く、自らの限界を超えて(陵いで)未来を切り拓いていくことへの願いを込めている。	1	・「瑛」と「陵」どちらにも深く意味が込められていて魅力を感じました。伊那新校では、今まで伊那になかった新たな学習環境や学習方法で、生徒一人ひとりの個性をひからせ、上へ上へとめざして行けるような高校にしてほしいと願っています。
C 伊那学峰 (いながくほう)	2つのアルプスに抱かれた「伊那」の地を舞台に、伝統を礎として新時代を切り拓く意志を「学峰」の名に込めた。地域に根ざしながらも、その学びが嶺を越え、未知の未来へ高く飛翔する象徴となることを目指す。この地から世界へ、輝く未来を創造する力を育む決意の表明。	1	・未来へ向けてのメッセージが込められていて、この中ならこれがいと率直に思ったから。「輝く未来を創造していく。」今、統合と同じ時期に入學し、高校生活を送っていく高校生が今まで通りの高校生生活は送れなくても、今まで通り笑顔が絶えないようになって欲しい。正直、他校に似ている音になってしまふのは少し、嫌だなと感じる。
D 伊那学陵 (いながくりょう)	両校が築いた「知の伝統」を継承・結集し、上伊那地域の教育の総本山として新たな歴史を刻む決意を込めた。「伊那」を冠することで、地域への深い愛着と、アルプスの山々に抱かれた学び舎(陵)から次代を担う志高い人材を輩出するという不変の使命を象徴した。	3	・高い学びを得る場所を学陵という一言でわかりやすく表している親しみやすい名前であり、他校との響きも似ていないから。高い学びを得て羽ばたくたくめ力を蓄える地となってほしい。 ・伊那北、伊那弥生ヶ丘 (旧伊那南・伊那東) がいずれも丘にある (あった) ことから、両校の伝統を継承するとともに、伊那北の前身である旧制伊那中学校と重ならないよう考慮した上で、伊那の地名に新たな学びの拠点として、より相応しい語を関して期待を込めた。 ・それぞれ素晴らしい校名で迷いますが、校地のある高台を「学びの丘」と捉え、地域の「学びの拠点」としての新しい高校をイメージしていきたいと考えました。県陵、清陵、学陵の3校の連携事業としての新しい高校をイメージしていきたいと考えました。県陵、清陵、学陵の3校の連携事業(3校戦など)を考えても面白いと思います。伊那の次にくる言葉「学陵」があることで、「学びの丘」「学びの拠点」としての新しい高校のイメージが徐々に浸透していけば素晴らしいと感じています。また、全国どの地域でも、その地域それぞれ思い入れのある「山」や「峰」がありまますので「峰」が入った校名は避けさせていただきました。
E 伊那双峰 (いなそうほう)	両校が築いた輝かしい伝統と郷土への誇りを継承し、更なる高みを目指す決意を込めた。東西のアルプスを仰ぐ「伊那」の地で、2つの歴史が「双峰」として結実し、互いに切磋琢磨しながら未来を拓く人材を育みたい。地域に愛され続ける学び舎の新たな象徴として命名。	2	・応募者の方の候補校名に込めた想いは、校名を読んだときにそのままイメージすることができました。また上伊那をはじめ、この地域をつくってこられた先人たちのへのリスペクトも感じられ、新校名としてふさわしく感じました。 ・歴史ある2校の統合であるから。
F 上伊那学陵 (かみいながくりょう)	両校の伝統を継承し、上伊那全域の教育の象徴となるべく「上伊那」を冠した。2つのアルプスを望むこの地を、郷土の誇りと知が集まる「学陵(まなびの丘)」と定義。地域全体で若者を育み、上伊那から世界へ羽ばたく高い志と、未来を切り拓く力を養成する決意を込めた。	0	

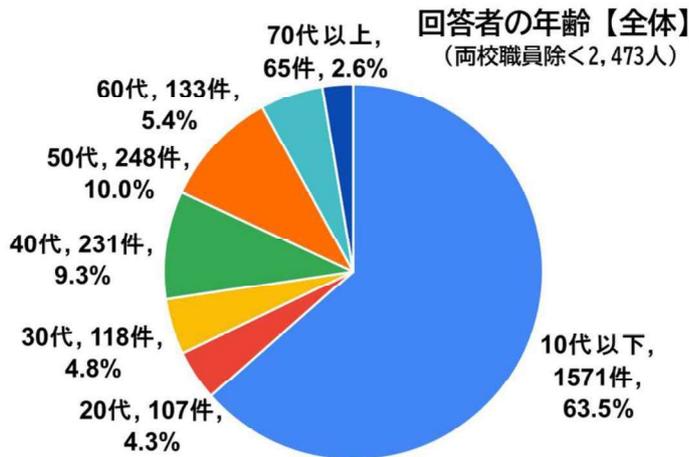
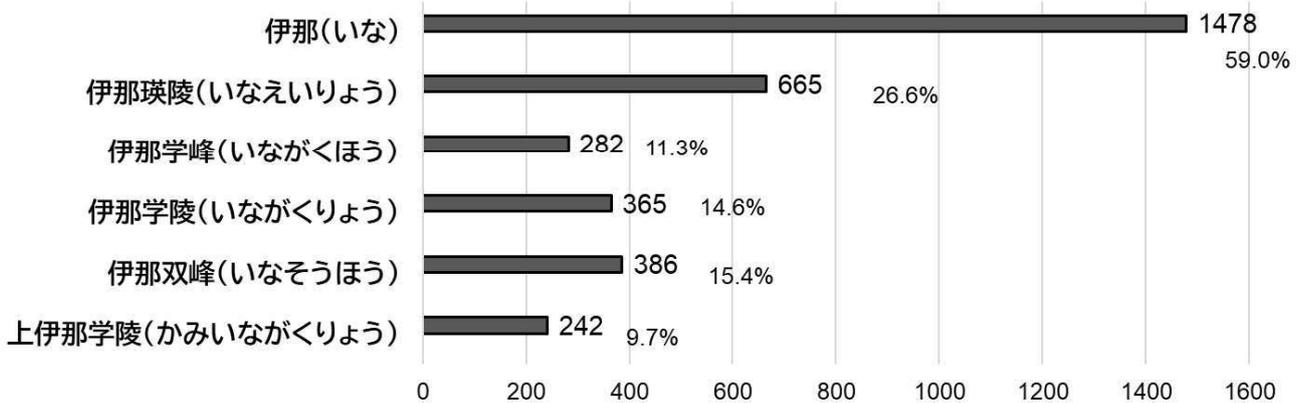
【別紙】

A 伊那 (いな) その校名とした理由 (22 票)	
<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 両校に共通する</li> <li>■ simple is best</li> <li>■ 1 番無難な校名と思われるため。</li> <li>■ シンプル 生徒が書きやすい</li> <li>■ シンプルで分かりやすい</li> <li>■ 両校もイメージできるシンプルで力強い名前</li> <li>■ シンプルかつ端的に新校を表している校名であるため。</li> <li>■ 最もシンプルで、伊那北、伊那弥生が丘双方の同窓生からしてもすんなり受け入れられそうだから。</li> <li>■ 伊那にできる高校なので、シンプルかつ覚えてもらいやすい校名として最もふさわしいと思います。</li> <li>■ シンプルな名称で、この地を出発点として羽ばたく学生たちの拠り所となる学校名になるとの願いから選びました。</li> <li>■ 流行 (私学などによくある名前) に流されずシンプルだが伊那の中心校としてふさわしい校名であると考えられます。</li> <li>■ 両校が歩んできた歴史、地域に根ざした教育は、伊那市、伊那とともにあります。シンプルでわかりやすい校名でもあり、小・中・高の連携も期待できる。</li> <li>■ 変に飾りのある校名よりも、シンプルで、上伊那における代表的な高校として「伊那高校」がいいのではないかと思います。その他の校名は、思いは理解できるが、なんとなく取ってつけた感じがしてしまう。(個人的感想ですが…)</li> <li>■ これからの学校は、社会状況の大きな変化の中で『時代』に対応した教育が求められると思います。校名はシンプルな『伊那』とし、特定のイメージを想起させるような漢字二文字は付けられない方が柔軟に教育内容を検討できると考えます。</li> <li>■ 両校の伝統を大切にするという観点から、地名だけを校名にした「長野県伊那高等学校」がふさわしいと考えます。最近では四文字の校名が多いようですが、あえてシンプルで覚えやすい名前にすることで、地域の代表校としての自覚を示し、長く親しまれる学校になることを期待します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ ・今呼ばれている「伊那新校」に 1 番近いし、1 番シンプルで覚えてもらいやすいのではないかと思っただけから。また、他の候補は漢字から意味が想像しにくいのではないかとも思った。・「伊那」という地域の名前を大切にすることで、地域と共に歩み、地域に親しまれる学校になってほしい。また、伊那の名を背負って未来へ進んでいく学校になつたらいいなという思いを込める (・他の校名はヌマホなどで漢字に変換するときや、書くときに漢字の画数が多く大変なのではないかと感じた。)</li> <li>■ 伊那の名を残したい。他の文字を校名に入れなくてよくと考えた。</li> <li>■ 地域に根差した学校、これまで伊那地域で紡いできた両校の歴史のもと、地域とともに、地域を代表する人材を育成して欲しい。</li> <li>■ 消去法で「伊那」にしました。・「学峰」も「学陵」も字面がびんと来ない。・「双峰」は音感がびんと来ない。・「上伊那」ではどこにあるのか分かりづらい。地域が散漫すぎる。★「珠陵」と迷いましたが、30 代の伊那北高校卒業生の意見も参考に、「伊那」にしました。</li> <li>■ 【理由】地域名をそのまま用いた校名は、県内外の人にも認知されやすく、地域の高校としての誇りや一体感を生みやすいと考えます。</li> <li>【込める願い】地域の名を冠する学校として、伊那の誇りとなり、未来を担う若者が大きく羽ばたく高校になってほしいという願いを込めました。</li> <li>■ それぞれ百年を超える伝統を持つ現在の両校に共通した地名「伊那」を掲げ、それ以外の文言は不要。余計な言葉を付け加えると、格式が損なわれる。新しい高校に人々が期待するものは一つの単語で代表できるものではないし、また長い年月にわたって不変のものとも言えない。新校が地域を代表する存在となることを願って、骨太で明快な名前を付けたい。</li> <li>■ 地域名を冠することで、地域を代表する高校、地域を担う高校という印象を与えます。地域名のみ校名とすることで、懐の深い、安定感、重みのある校名となります。その反面、地域名以外の語 (陵、峰、学など) を入れると、校名に何らかの思いを込めたという意図が透けて見え、軽く感じられるため、避けた方がよいと思います。新校のイメージは、在校生及び卒業生が今後長い年月をかけて作り上げるものなので、校名に最初から何らかの思いを込める必要はないと思います。また、新校立ち上げ時の高揚感の中で、色々な言葉を思いとして入れてしまうと、将来、校名が時代や校風に合わなくなる可能性もあると考えられます。以上のことから、新校の校名を「伊那高等学校」で投票いたします。</li> </ul>

## 【伊那新校 校名選考】 二次選考での投票及び意見募集の結果

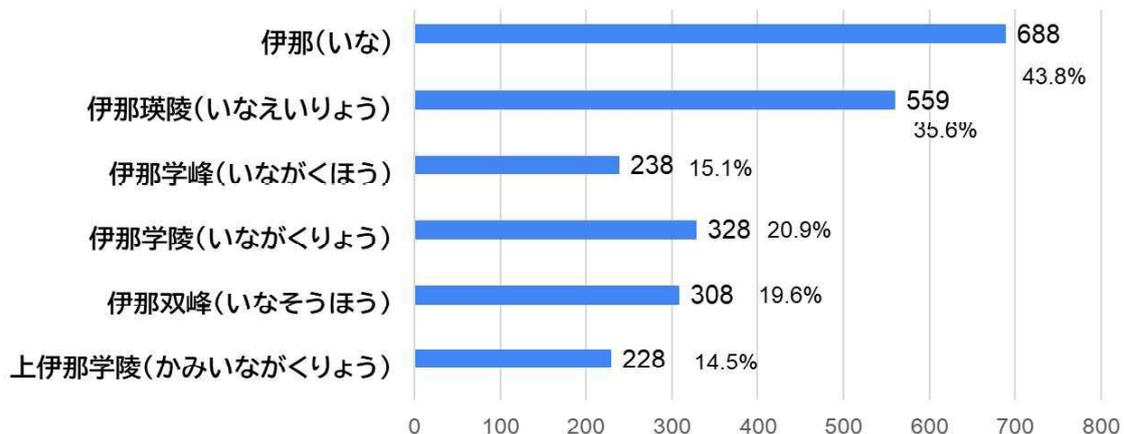
- 期間:令和8年(2026年)2月26日(木)～3月12日(木)
- 回答方法:応募フォーム 2,500 件、郵送4件 合計 2,504 件
- 全体集計 ※懇話会構成員は別紙参照

【全体】2,504件(懇話会構成員除く) 最大3つまで



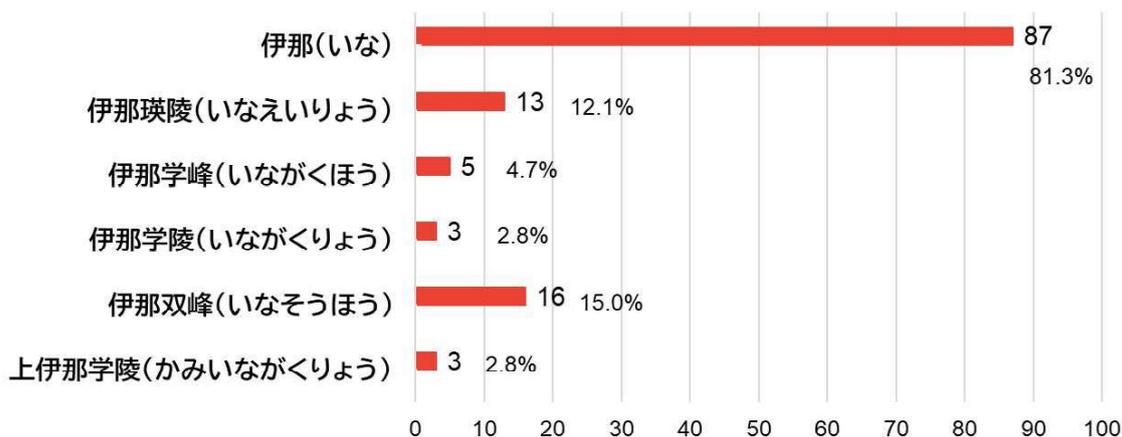
- 年齢別集計(2,473 件の内訳) ※両校職員 31 人は年齢を集計していないので除く
- ◇10代以下(上伊那地域中学生、両校在校生など)

【10代以下】1,571件 最大3つまで



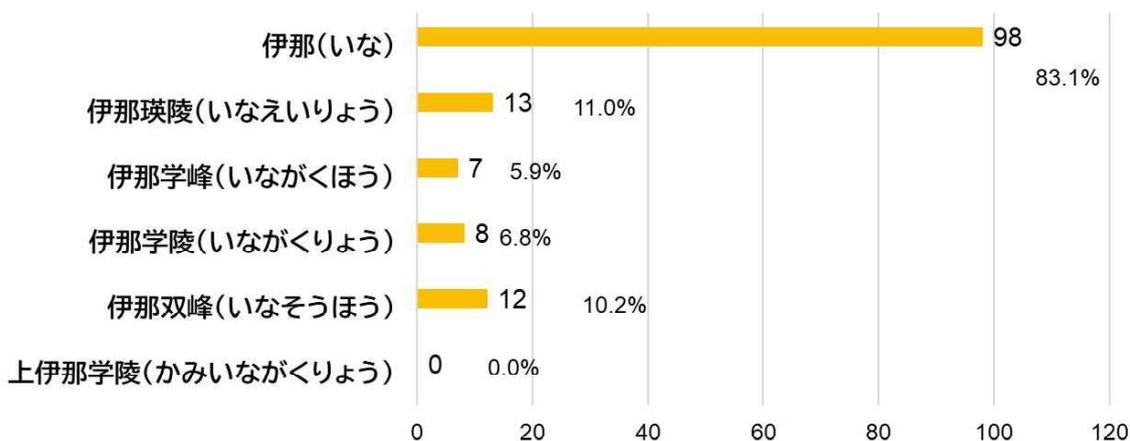
◇20代

【20代】107件 最大3つまで



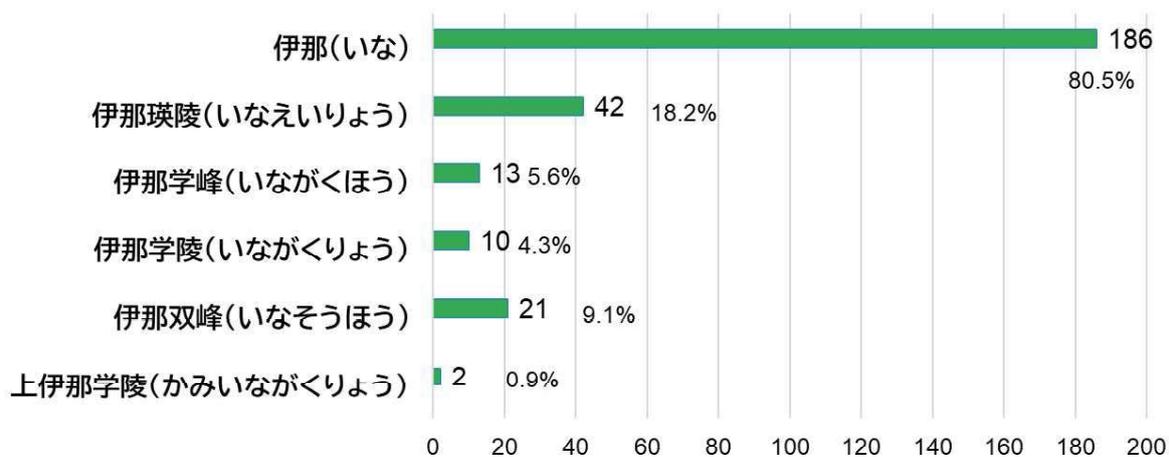
◇30代

【30代】118件 最大3つまで

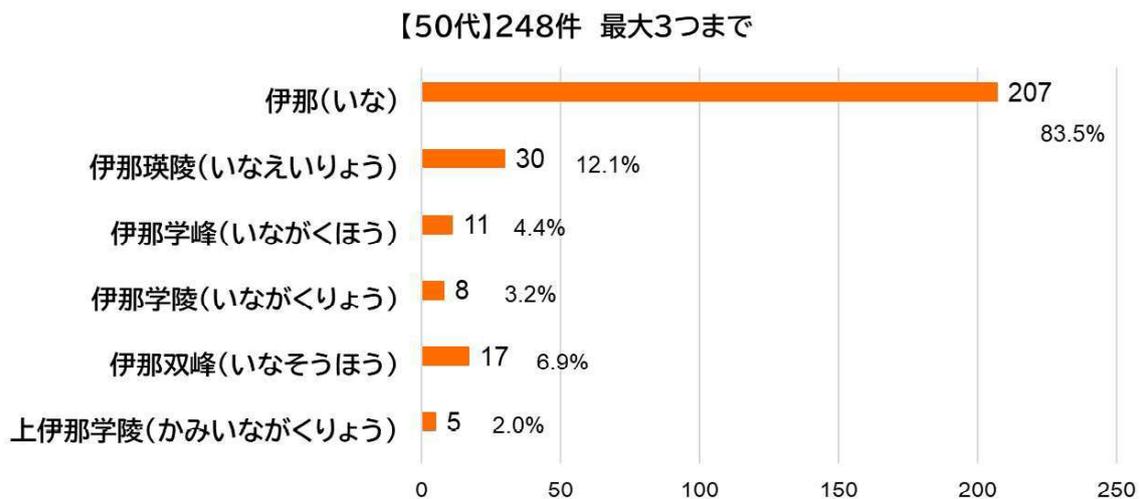


◇40代

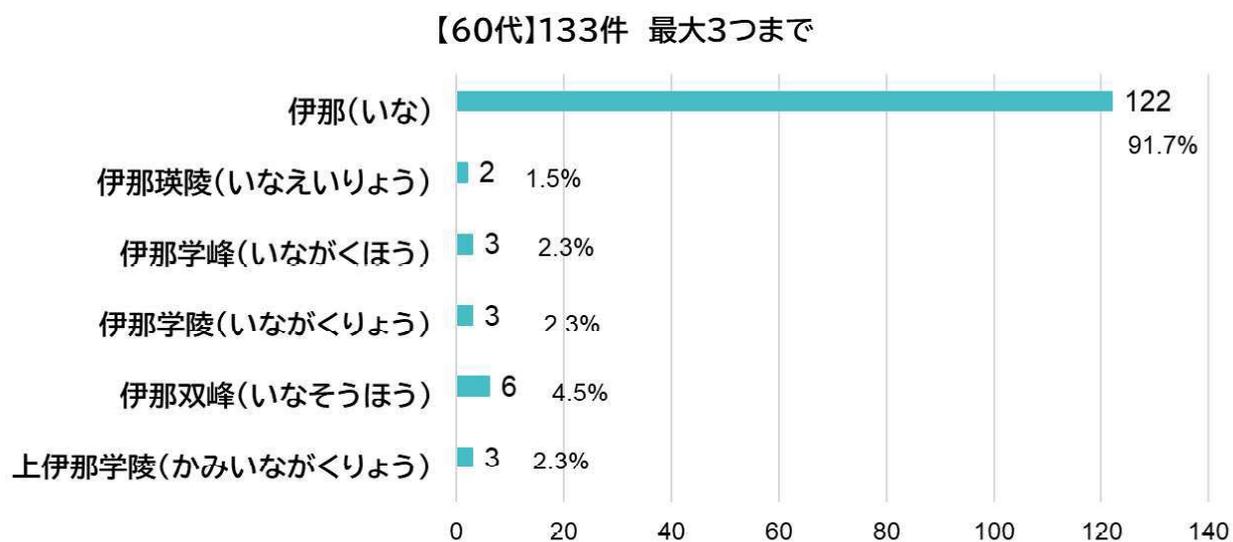
【40代】231件 最大3つまで



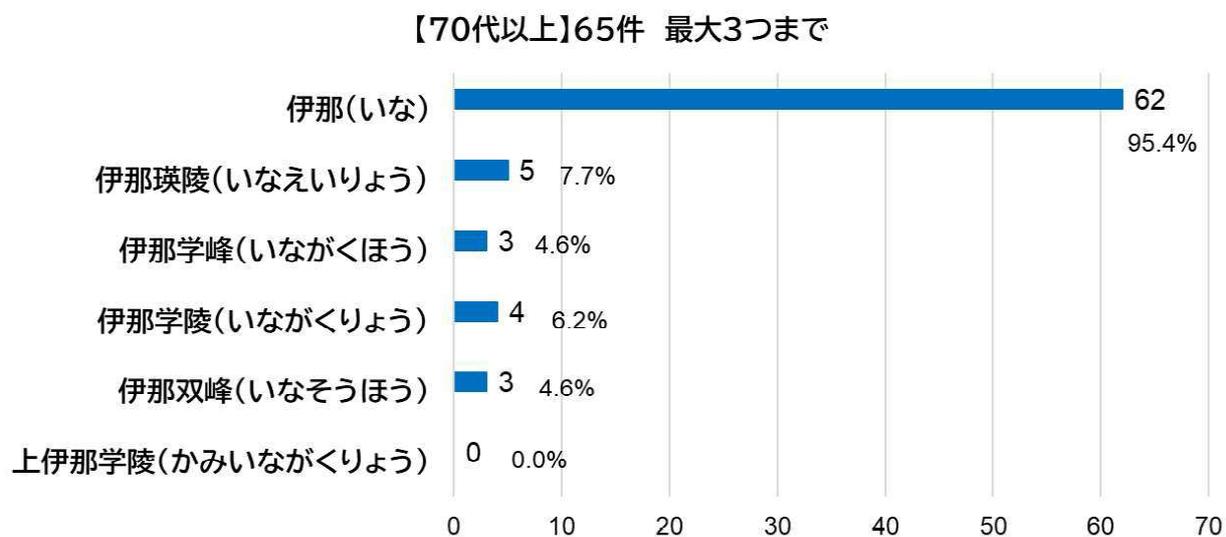
◇50代



◇60代



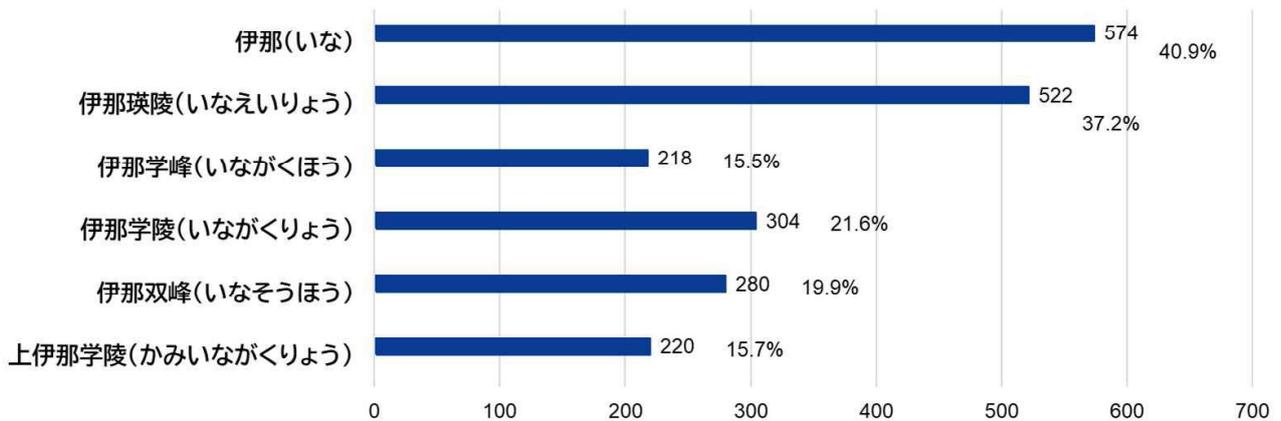
◇70代以上



●職業等別集計

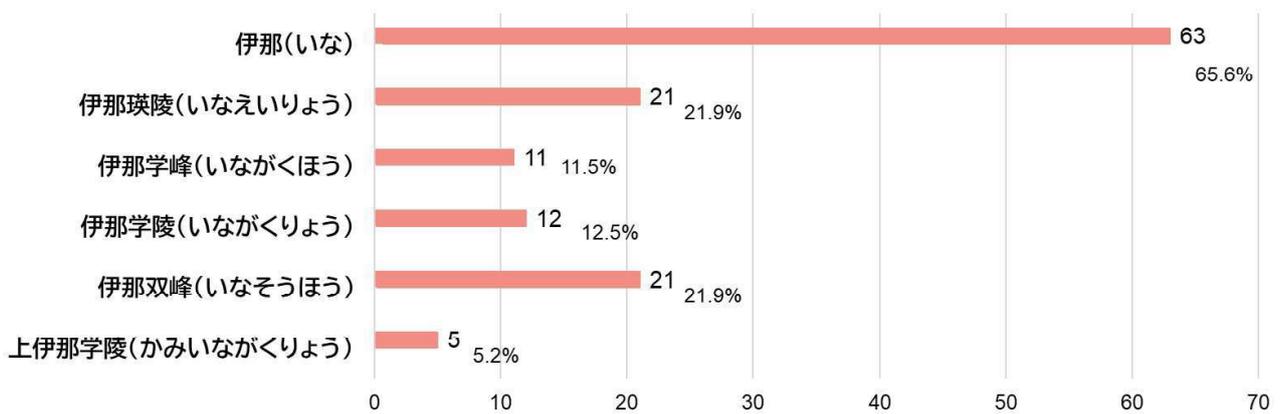
□中学生(上伊那地域中学1・2年生、在籍 3,087 人)

【中学生】1,405件(上伊那地域中学1・2年生)回答率45.5% 最大3つまで



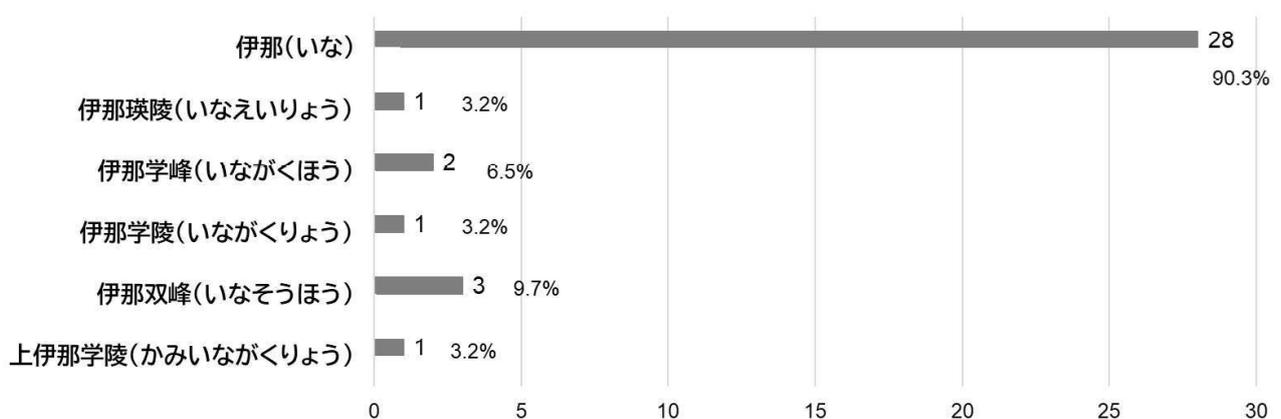
□在校生(両校在校生1・2年生、在籍 866 人)

【在校生】96件(両校1・2年生)回答率11.1% 最大3つまで



□職員(両校職員 132 人)

【職員】31件(両校)回答率23.5% 最大3つまで



●校名候補に寄せられた意見(要約)

伊那(いな)	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・両校に共通する「伊那」を用いることで双方の卒業生や在校生が誇りをもって受け入れられる。</li> <li>・旧制の伊那中学校や伊那高等女学校という両校の歴史的ルーツに基づき、昔からの馴染みが深い。</li> <li>・シンプルな校名がかっこいい。短い校名は覚えやすく書きやすい。校名で学校の性格を定義しすぎず、生徒たちが自由な発想で新しい歴史や校風を積み上げていってほしい。</li> </ul>	
伊那瑛陵(いなえいりょう)	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・漢字の並びがきれい、美しく賢そう。かっこいい。</li> <li>・県内の他校と音が被らない「瑛陵」を組み合わせることで、地域らしさと新設校としての独自性を両立させている。</li> <li>・アルプスを象徴する意味合いや「未来を切り開く」「希望に満ち溢れた」といった名前に込められた由来に共感できる。</li> </ul>	
伊那学峰(いながくほう)	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「教育の頂点を目指す」といった、高い意識を表現している。「学」の字が入ることで、学ぶ意欲や知的な印象を直感的に与えられる。</li> <li>・伊那谷を象徴する2つのアルプスや三峰川を連想させる「峰」という漢字が、地域の景観に合致している。</li> <li>・「未知への旅に飛び立つ」「高く飛翔する」といった、新校としてのチャレンジ精神や、生徒たちが未来へ羽ばたくイメージが込められている。</li> </ul>	
伊那学陵(いながくりょう)	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「知の拠点」を感じさせる高い専門性と品格があり、両校が築いた「知の伝統」を継承し、結集させる印象がある。</li> <li>・「アルプスの山々に抱かれた」「高台にある学び舎」といった所在地の風景に、言葉の響きが非常に合っている。</li> <li>・「伊那学(いながく)」などと略した際の語呂が良く、リズムや響きが「かっこいい」と感じる。</li> </ul>	
伊那双峰(いなそうほう)	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・伝統ある2校が合流した歴史を「双」という一文字に込めることで、双方の伝統や誇りを対等に継承・内包していると感じる。</li> <li>・中央アルプスと南アルプスの2つの峰に囲まれた伊那谷特有の地形を「双峰」と表現することに親近感が持てる。</li> <li>・2つの高峰が並び立つイメージから、生徒たちが互いに高め合い、さらなる高み(峰)を目指して進学・成長していくという教育的な願いが込められている。</li> </ul>	
上伊那学陵(かみいながくりょう)	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・伊那市にとどまらず「上伊那全域」の教育の象徴であるという広域的な視点がある。</li> <li>・「学」の文字が入ることで、知的な印象を直感的に与える。</li> <li>・「上伊那から世界へ」というグローバルな志や、未来を切り拓く力を養成するという校名に込められたメッセージに共感できる。</li> </ul>	

# 伊那新校（仮称） 伊那北高等学校 伊那弥生ヶ丘高等学校 地域説明会

日時：令和7年11月24日  
会場：長野県伊那文化会館  
参加者：247名



伊那新校ホームページ



1

## 伊那新校の校舎整備について①



2031年（令和13年）完成予定図

2

## 伊那新校の校舎整備について②



正面

3

## 新校の校舎整備について③



南棟1階 フレキシブルラーニングエリア（FLA）

4

## 新校の校舎整備について④



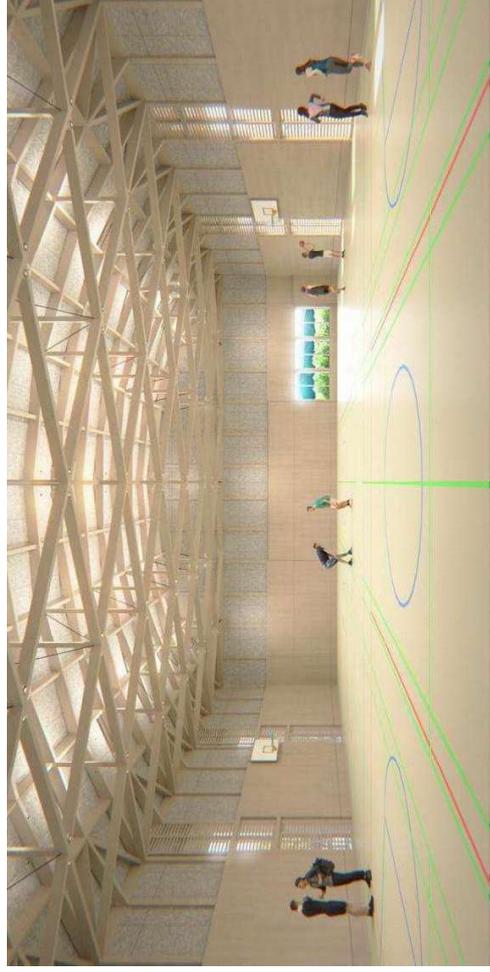
西棟中庭 2027年（令和9年）9月使用開始予定



普通教室

5

## 新校の校舎整備について⑤



新しい小体育館

6

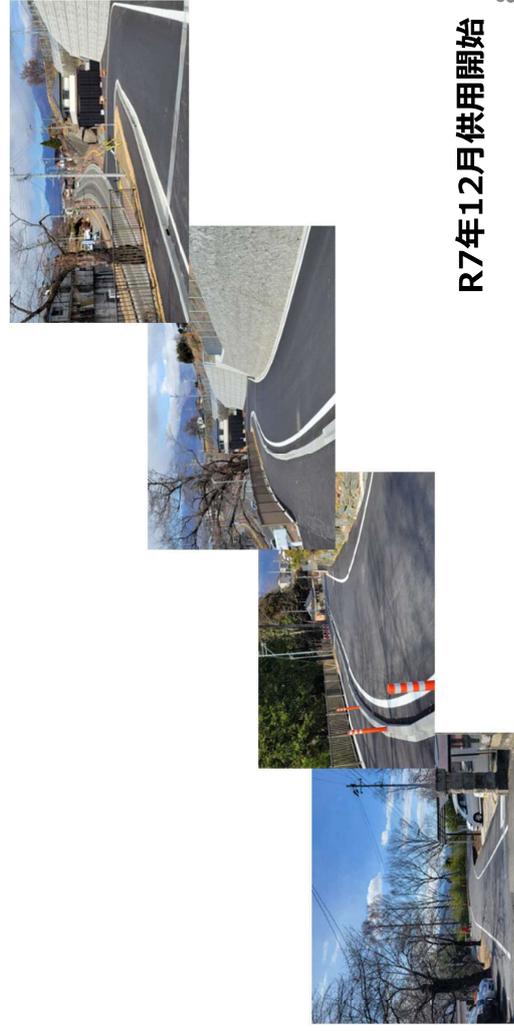
# 開校に向けた 校舎整備の進捗状況



令和8年3月18日(水)  
伊那新校懇話会

7

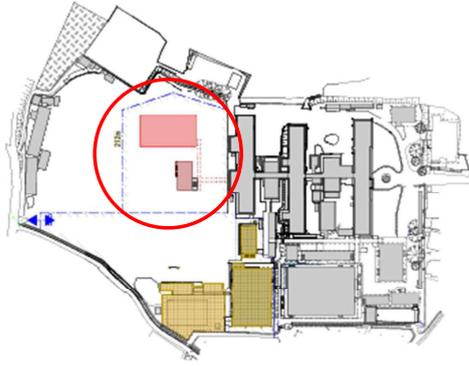
## 1 拡張された旧1万円道路



R7年12月供用開始

8

## 2 仮設の体育館・音楽室・音楽室・調理室



4月から授業  
で使用します

9

## 2 仮設の体育館・音楽室・音楽室・調理室



仮設音楽室  
仮設調理室  
が建ちます

仮設体育館  
が建ちます

R7年11月<sup>10</sup>

## 2 仮設の体育館・音楽室・音楽室・調理室



仮設体育館

R8年3月

2階：音楽室  
1階：調理室



北校舎から渡り廊下  
で仮設校舎へ

11

## 2 仮設の体育館・音楽室・音楽室・調理室

### (1) 体育館



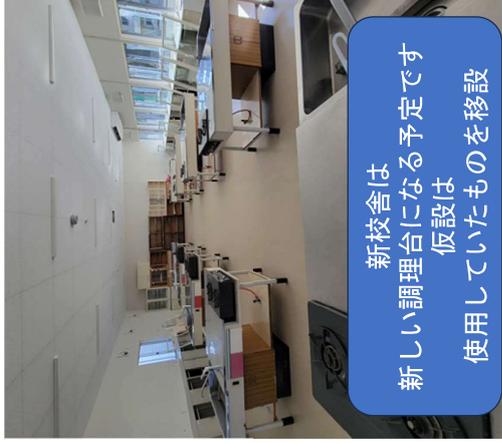
バドミントンコートが4面  
天井までは約7 m



トイレ・水道

## 2 仮設の体育館・音楽室・調理室

### (2) 調理室



新校舎は  
新しい調理台になる予定です  
仮設は  
使用していたものを移設



準備室  
念願のエアコンが  
設置されました

13

## 2 仮設の体育館・音楽室・調理室

### (3) 音楽室



奥の器具庫



ピアノや机等の搬入は  
3月中



階段で2階へ



準備室

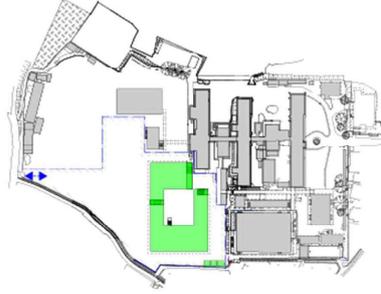
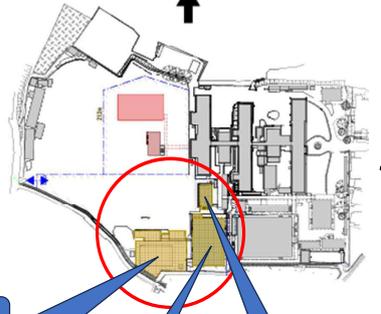
14

## 3 新校の西棟について

プール解体

小体育館解体

音楽室  
調理室  
解体



R8年3月  
解体工事終了

R9年8月完成予定

15

## 3 新校の西棟について

小体育館・プール  
解体工事中  
(R7年11月)



16

### 3 新校の西棟について



更地になっていきます

プールの  
名残？



R8年3月

この場所に  
新校の西棟  
が建設されます

### 3 新校の西棟 1階配置図



### 3 新校の西棟 2階配置図



ご静聴ありがとうございました